【総合的な学習の時間】提案

探究する学びを創る
～多様な視点で考える子ども～

１．研究テーマ設定の理由

（１）学校提案とかかわって

総合的な学習の時間（以下文中は，総合とする）は，子どもたち自らが課題を設定し，そして解決し，さらに新たな課題を生み出す学びを繰り返し行っていくことである。そのプロセスにおいて「探究する学びを創る」ことを研究のテーマとした。答えが多様で正答のない課題に対して，みんなと協力し，互いに知識や知恵を出し合いながら解決していく学びを創っていく。

本年度の学校提案のサブテーマである「『吟味を生み出す対話』をつくる」ため，総合部では探究する学びを創っていく中において思考過程の可視化を図る。ただ，自分の思いや考えを言葉，表や図で表すということだけではない。探究する学びを創るためには，みえる形になった子どもたちの思いや考えに対して理由や根拠を見出した多面的な考察が必要である。また，そこでさらに新たな課題が生まれ，多様な視点をもって様々な調べ学習や友だちと交流しながら学んでいく。

このように対象にどっぷりとかかわることで，その価値や真理に対して深く追い求めるができる。思考過程の可視化は多様な視点を子どもたちの中に生み出すための手段と捉え，実践を通して研究を進めていく。

（２）総合的な学習の時間でめざす子ども像

多様な視点で考える子ども

答えが多様で正答のない課題に対して，自分一人では解決できないことが，他者との多様な考えを共有し，試行錯誤することで対象への新しいとらえ方が生まれ，解決へと導かれたり，新たな課題の誕生となったりする。

例として課題設定場面におけるめざす子ども像を紹介する。まずは一人ひとりのはてな？を共有する。自由な発想から生まれたはてな？であるため，自分のはてな？を他人が発展させることもできるし，自分とは異なっていたとしても，素直に「どうしてそう考えたの？」と聞きやすい。こうして子どもたちの中に対話が生まれていく中，大切なことは１つの面からだけで判断しないことである。みんなから出されたはてな？に対してどうしてそのはてな？が生み出されてきたのか思考過程を可視化することによって多様な視点で考えることができ，追究したい課題へとつながるかどうかを判断できる。子どもたちがこのような対話は，具体から抽象へ，そしてさらに抽象から具体へと行き来が頻繁となり，子どもたちの思考が吟味され，共通認識が生まれる。

２．総合的な学習の時間における「学びの質の高まり」

総合における「学びの質の高まり」とは，子どもたち自らが「なるほど！」と感じることである。自分なりの視点をもってみていたものが，友だちとのやりとりや調査していく過程で出合っ

た視点によって自分の中に新しい世界が生み出される。対話を進めていく中で，既存の知識と新しい知識がつながり，「なるほど」と感じるのである。

３．研究の展望

（１）多様な視点で考えるための表現活動の工夫

対話において多様な視点が表出するためには，互いの思考をみえる形で表現していかなければならない。また総合では，動機付けと振り返りを大切にした体験活動を重視しており，このような体験活動において，自らがどのようなことに気付き，何を追究していきたいのかということを表出しなければならない。それらを自分たちが得た知識や技能を結びつけて，ペア，小グループ，そして全体へと発信していくために有効な表現活動を探っていく。

（２）学校カリキュラムの作成

総合での成果を生み出すためには，学校全体としての目標や内容を明確に設定し，必要な力が子どもたちについたかについて検証・評価を行わなければならない。また，教科との関連に十分配慮し，適切な指導が行われていかなければならない。そのため，図１に示した育てたい力を明確にした実践を行っていき，カリキュラムを作成していくこととする。

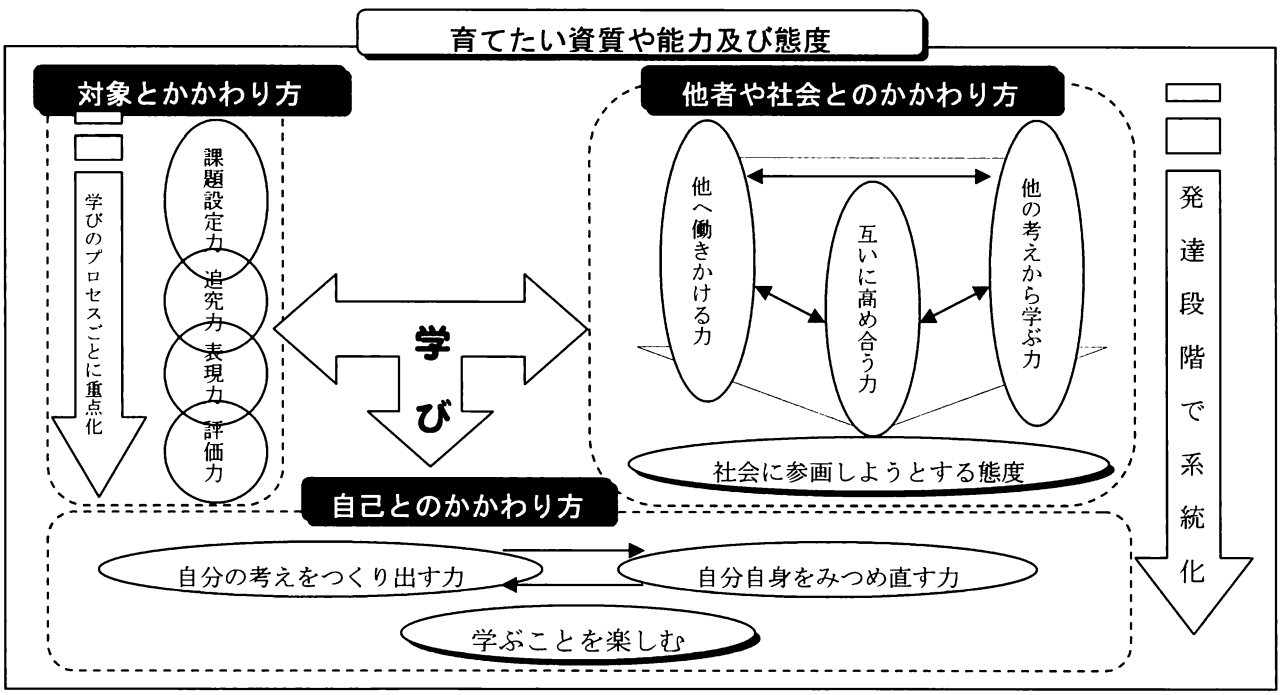

図１　「総合的な学習の時間」における育てたい資質や能力及び態度

４．研究の評価

子どもたち一人ひとりの思考の過程を可視化する表現活動の工夫により，探究する学びがどのように創られていくかについて，子どもたちのやりとりの記録，ノート等の分析により明らかにする。また，「対話」を深める有効な手だてとして，ペア，小グループ，全体での場面において，どのような活用が望ましいかをまとめる。